プリンセス
小公女セーラ

第40話

『アメリア先生の涙』
（仮）

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第四十話　『アメリア先生の涙』（仮）

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
ベッキー…………鈴木みえ
ロッティ…………渡辺菜生子
アーメンガード…八百板万紀
ピーター…………坂本千夏

ラビニア……………山田栄子
ガートルード………佐々木るん
ジェシー……………飯塚はるみ
モーリー……………向殿あさみ
ジェームス…………郷里大輔
町のおばさん………
ワイルド先生………槐柳二
パブの客たち………

カメラ	画面		音声
1	濃い霧で明確に見えないロンドンの屋根が徐々に見えてくる		S・E（鐘の音）
2	学院前の公園も霧にかすむ ガス灯の青い火がゆらめいている　霧の中から歩いてくる男 （F・I）　ガス灯のフタをあける		
3	灯が小さくなって消えていく		
4	うす暗い馬小屋の中 PAN・DOWN↓（カット一杯）		
5	斜めになった棒　押上げの窓 ワラの束		
6	馬小屋の中、ワラがこんもり盛り上がっている　PAN←（カット一杯）		

7	ワラの中に寝るセーラと頭元のエミリーと写真		
8	エミリーとセーラの父母の写真がワラの上におかれている		
9	ワラの中に寝ているセーラ——薄く目をあける		
10	ワラの臥床より起き上がるセーラ　身をかかえ寒さをこらえる髪の毛、肩についたワラの屑をはらいのける		
11	壁際のエミリーの方へ寄り、エミリーと写真をとり上げる父母の写真を見つめ、にっこりとするセーラ		セーラ　「お早ようエミリー！……」
12	父母の写真		
13	エミリーを抱き、写真を見つめるセーラ		

14	二階の窓の近くにうずくまり寝ているシーザー		S・E（振鈴の音が鳴り出す）
15	眼をさまし大きく伸びをするが、又うしろ向きになって寝てしまう		シーザー「ミャ〜」
16	燃える暖炉の火　ミンチンの声が聞こえる		ミンチン(off)「え——っ……そういう訳で」
17	すでに食卓についてる生徒たちの前にパンを配るセーラ		ミンチン(off)「今日は、私は市長夫人のもとにお願いに上がらなければなりませんので〜〜〜〜〜〜〜
18	パンを配るベッキーを見上げてにっとし合う二人（カット尻ベッキーあいてout）		
19			皆さんと一緒に礼拝に参る事が出来ません……」
20	顔を見合わせ、ざわめくラビニア、ジェシー、ガートルード		ジェシー・ガートルード「ガヤガヤ」

21	ロッティ、スーザン		
22	ざわめく女生徒たち一同 手振り身振りで喜び合う――		
23	手をたたき		ミンチン「静かにっ！　静かにっ！」
24	静まる女生徒たち		
25			ミンチン「従って今日の日曜日礼拝の引率はアメリア先生一人でいってもらうことになります」
26	アメリア、にこやかに女生徒たちに微笑する		
27	喜ぶ子供たち　ロッティ、スーザン		
28	ペネラビ、ジェイン　奥にラビニア		
29	セーラとベッキーも顔を見せて		

	画面		台詞
	微笑し合う		
30	又手をたたき		ミンチン「静かにっ！ ですからアメリア先生の言うことを良く聞いて、我が学院の恥にならないよう行動するように。←いいですね」
31	生徒たち		ⓞff 女生徒たち「はあーい」
32	ニッコリするアメリア ミンチン、セーラに向って		ミンチン「セーラ、辻馬車を呼んでちょうだい」
33			セーラ「は、はい、院長先生…」
34	子供たち うきうきしてかろやかに階段をのぼる（完全に走らないように） アーメンガードたちも階段を上がってくる		子供たち「わーい！ わーい！」
35	扉開いて ミンチン、アメリア入ってくる（三Ｆの書斎） ドアを閉めるアメリア A・C		ミンチン「なんですって？ 礼拝の帰りに回り道をしたいですって……？」

A・C

36	ドアを閉めて振り返るアメリア うつむき、一寸ためらうが 意を決して——		アメリア「ええ、お姉様……実は、……前から生徒たちと約束していたんですの。いつかセントジェームズ公園にお散歩に連れて行ってあげるって……」
37	ミンチン コートを着て帽子を手にもち、頭にのせながら		ミンチン「呆れた…私に隠れて、生徒たちに取り入るような約束をするなんて」
38	一寸すまして服や帽子の様子をながめるミンチン アメリア、近づいて		アメリア「ご、ごめんなさい」
39	申し訳なさそうに上目使いに		アメリア「そんなつもりではなかったんですけれど……」
40	鏡にうつるミンチン、ごきげんためつすがめつしている （三十〇）↓台詞はこれ以后に		ミンチン「ま、いいでしょ。但し、生徒たちに、羽根を伸ばさせすぎないように…」
41	39兼用書き足し 顔がほころんで		アメリア「は、はい、お姉様」

42	Fr・in 馬車にのるミンチン セーラ、ドアを閉める A・Cつなぎ		
43	すわるミンチン窓にアメリア以下女生徒がコートを着て立っている 御者に声をかける 馬車動き出す		ミンチン「では頼みましたよ」 アメリア「はい、お姉様」 ミンチン「行ってちょうだい」
44	馬車		
45	遠ざかる馬車		
46	見送る一同　T・B　女生徒たち　顔を見合わせ、どっと歓声をあげる		
47	アメリア、はらはらして セーラの方を見て		アメリア「さ、騒がないで！ 院長先生にやっとお許しを頂いたのですからね…。あ…セーラさん」
48			セーラ　「はい」 アメリア「モリーとジェームスにお弁当を作っ

No.	画面		台詞
			て貰うよう、お願いしといて下さる？」 セーラ「はい、アメリア先生」
49			アメリア「それから、お弁当はベッキーと一緒に公園の方に届けてちょうだい」
50	喜ぶロッティ、アーメンガード にこにこしているセーラ		セーラ「はい、アメリア先生」 ロッティ「うわあー、セーラママもいっしょに行けるのね。わーい、わーい」
51	ラビニアたち　冷笑で見ている		
55	ジロリと振り返るモーリーとジェームス		モーリー「なんだって？　……弁当を作れだって？」
56	ベッキー、手にした空鍋をテーブルに置き、ニッコリして—— セーラの方へ		セーラ「はい……。アメリア先生が私とベッキーに公園に届けるようにと……」
57	ベッキー、傍によって来る		ジェームス「フン…まったくもう、余計な仕事をふやしやがって……」 ベッキー「でもお嬢様……」

〜

58	ベッキー、セーラをのぞきこみ セーラ微笑		〜 私達まで公園に散歩に行けるだなんて ……やりましたね……」 セーラ「え、ええ、ベッキー」
59	ジロリと睨んで、前に出る		ジェームス「フン、調子に乗るんじゃねえ」
60	ハッとするセーラ、ベッキー		
61	ジェームスの傍に歩いてくるモ		ジェームス「弁当をつくるなんて、まだまだずっとあとだ」
62	モーリー強く		モーリー「そうさ、その前にさっさと、お前たちの仕事を片付けるんだよ。いいね、うかれてさぼったりしたら承知しないよ」
63	うなずくセーラ ベッキーもしょんぼり首をすくめる　チラッとセーラを見て、又下を見るベッキー		セーラ「はい、モーリーさん」
64	鳩が舞う　PAN→ FOLLOW　セントポール寺		

	院の丸ドーム		
65	セントポール寺院の大ドーム内部　PAN・DOWN		
66	ステンドグラス		
67	内陣　PAN・DOWN		
68	いのる生徒たちの後姿　T・B （注）セーラと先生と市長夫人たち		
69	いのる生徒たち　ラビニアをのぞき見るロッティ……睨むラビニア——顔をゆがめて祈るロッティ		
70	皿や食器を洗っているセーラの手		
71	洗う二人		ベッキー「ハァー、今頃はもう公園についてる頃でございますねえ」

	懸命に洗うセーラはうわの空である		セーラ　「ええ、そうね」 ベッキー「おそうございますね、お弁当……」
72	にこりとして手を休めずに――		セーラ　「そうね、そろそろ出かけないと、お昼に間にあわないかもしれないわね」
73	と悪口をいいかけたときジェームスの声が あわてて口を押さえるベッキー		ベッキー「ぎりぎりまで仕事をさせる気でございますですね。まったく意地が悪い…」 ジェームス(off)「おーい、弁当〜〜〜〜が出来たぞ。さっさとそっちの仕事をすませちまいな」
74	二人顔を見合わせて、舌を出しにやりとするベッキー		二　人「は――い」
75	紙で上部を覆った手提篭二つ、机においてある　ドアが開き、セーラ、ベッキーが入ってくる		
76	モーリー、きつく		モーリー「いいかい、お前達の分は入ってないんだからね、用が済んだらさっさと帰って来るんだよ」

77	手提篭をとるセーラ、ベッキー		セーラ　「はい」
78	モーリー		モーリー「生徒さんたちと一緒に遊んでなんか 来たら、ただじゃおかないからね…」
79	セーラ、ベッキー		セーラ　「は、はい、モーリーさん」 ベッキー「いってきます」
80	使用人階段を篭を持ったセーラ とベッキーが上って来る 少し速足で歩く		セーラ　「ベッキー急ぎましょう」 ベッキー「はい、お嬢様」
81	FOLLOW　歩く二人		
82	FOLLOW　篭のUP		
83	犬をつれた貴婦人につけて FOLLOW　PAN 手前の木、密着　広い公園の風 景		
84	トロットの馬　FOLLOW		

	少しスライド		
85	乗馬の紳士 FOLLOW← FOLLOW STOP 紳士Fr・out 奥からセーラ、ベッキーやって 来る 手前を歩く貴婦人		
86	FOLLOW 弁当の篭を抱え て見廻しながら来るセーラとベ ッキー		ベッキー「うわあ……お嬢様、セントジェーム ズ公園って、こんな広い公園だったん でございますかー?」
87	BG・ONLY PAN T・U		セーラ(off)「ほんとねー、すごいわー」
88	FOLLOW← BOOK密着		セーラ「素敵ねえ……」
89	FOLLOW 一方に気がつき 立ちどまり右上を見る		セーラ「あら」
90	木の上にリスがいる T・U		
91	木の実をかじってるリスなめ、		セーラ「リスだわ」

	セーラ、ベッキーそーっと近づく		ベッキー「うわー！　かわいい」
92	木の実をカリカリ食べてるリス セーラたちの気配に気づきサッとFr・out		
93	顔を見合わせ、クスッと笑う その時草がカサッと音をたてる その方を見る二人		セーラ「あっ、行っちゃった」
94	草むらからキョトンと立ち上がってこちらを見ている野うさぎ		
95	二人びっくり		ベッキー「あ、ウサギです！」 セーラ「まあ」
96	草むらに消える		
97	微笑で見送る二人　うしろを乗馬の紳士が通る　ベッキー、我にかえって		ベッキー「あのーお嬢様、早く皆さんを探しませんと、又ラビニアさんに文句をつけられますですから……」

98	二人、 Fr・out		セーラ「あ、ごめんなさいベッキー、いそぎましょう」 ベッキー「はい、お嬢様」
99	奥に池が見える 木の間からFr・inするベッキー セーラ		
100	キョロキョロしながら歩く FOLLOW　突然一方から女 の悲鳴が FOLLOW　STOP Fr・out		声　「キャ――ァ!!　た、助けてえ！」 ベッキー「あの声は、アメリア先生ですわ」 セーラ「あっちの方だわ、行ってみましょう」 ベッキー「はい」
101	←FOLLOW　小走りの二人 密着		
102	PAN　T・U　囃し立てる女 生徒たちに囲まれて、ベンチの 上に乗ったアメリアがその下で 吠えつく小犬に悲鳴をあげて右		

	へ左へ逃げてる		
103	立ちどまり、状況がわかり、ニヤッとして		セーラ「あそこだわ」 ベッキー「アメリア先生ったら」 二人「ふふふ」
104	オロオロ　右へ行ったり左へ行ったり　カメラつけて		アメリア「キャア！　あ、私、犬はだめなのよオ、助けてえ」
105	吠える小犬		犬「ワン！　ワン！　ワン！」
106	囃し立てる女生徒たち		女生徒たち「（アドリブ）ワイワイ」
107	吠える小犬　オロオロするアメリア		
108	C－85兼用		アメリア「キャーア、あなたたちその犬をなんとか、なんとかしてえ…！」
109	クスクス笑う女生徒たち		ガートルード(off)「先生、大丈夫ですよ、小犬ですから」
110			犬「ワン！　ワン！　ワン！」

	cut 尻とびあがる		アメリア(off)「小犬でも、恐いものは恐いですよ」 犬「ワン！」
	A・Cつなぎ		
111	ベンチにとびのる小犬 あわてて左へ逃げるアメリアに つけPAN		アメリア「キャー！」
	A・C		
112	ベンチから池につき出た木におもわずとびうつる		
113	が、バランスをくずすアメリア 手前にinするセーラ、ベッキー ベンチから顔を出して		アメリア「あ〜あ〜」 犬「ワン！ワン！」
114	池の中に落ちるアメリア		アメリア「キャ――ア！」
115	唖然と見るセーラ、ベッキー あわててFr・out		
116	ビックリするラビニア、ガートルード、ジェシー　意外な成行きに驚いてる　助けに行くのをためらう		ラビニア「アメリア先生」

117	アーメンガード、ロッティ、ジェイン　顔を見合わせる		
118	池の中は意外と浅いので尻餅をついてる		アメリア「アイタタタ……」
119	はっとなる二人　篭を地面におく		
120	池の中に足を入れる二人 水を分けて――		
121	とみんな近寄る		ロッティ「あ、セーラママ」 アーメンガード「よかった」
122	セーラ、ベッキー　抱き起こす		セーラ　「アメリア先生、大丈夫ですか」 ベッキー「さっ、肩につかまって下さいまし」 アメリア「アイタタタ……」
123	と小声でつぶやき近づく		ラビニア「セーラのでしゃばり、私が助けよう と思ったのに……」

124	池の中からびしょ濡れのアメリアを抱え持って水際に運び上げるセーラ、ベッキー 近づく女生徒たち		アメリア「アイタタタ……お願い、そーっと、 そーっとして！」
125	怪訝そうに首を傾けるがそのまま 悲鳴に驚いて、アウトして行ってしまう		アメリア(off)「アイタタター、イタアーイ！」
126	女生徒ナメ、いたがるアメリア 茫然と顔を見合わせるセーラ、ベッキー、女生徒たち		アメリア「腰の骨が……腰の骨が……」 ベッキー「お嬢様……これでは、とても学院までお連れ出来ませんです」
127	悲鳴でいたがるアメリア と立ち上がり —A・Cつなぎ—		セーラ「え、ええ、困ったわね……」 アメリア「うう……」 セーラ「待って、ピーターに頼んでみるわ、 アメリア先生をお願いね」
128	ラビニア、先生をささえて（わざとらしく）		ベッキー「お、お嬢様…………」 ラビニア「アメリア先生、しっかりして下さい。 私がいたらなかったのです、お許し下

	129	130	131	132	133	134
Fr・outのセーラ	市場の雑踏　PAN→	角をまがってFr・inするセーラ キョロキョロしながら （時々手前を通りすぎる人も入れて下さい） 一方に気がついて急いでFr・out	掃除してるピーター Fr・inするセーラ	ピーター　びっくり	セーラ　ひっしに	ピーター とFr・out
さい」			セーラ「ピーター」 ピーター「あ、お嬢さん」	ピーター「なんですって？　アメリア先生が池に…」	セーラ「ええ、腰を強く打って。お願いピーター、なんとか学院まで連れてってほしいの…」	ピーター「よしきた、いますぐ荷馬車を借りて来まさあ。ちょっと待ってて下さい」

135	FOLLOW　荷馬車の車輪 UP→		
136	FOLLOW		ピーター「ハイッ！」 セーラ「静かにお願いね」 ピーター「わかってますさあ」
137	FOLLOW　上下動 つきそってるベッキー		アメリア「うう……」 ベッキー「大丈夫でございますか」 アメリア「大丈夫よ！」
139	荷馬車が走りつく		
140	セーラ　飛び降りると地下の階 段へ		
141	驚いてセーラを見るモーリーと ジェームス		モーリー「なんだって？　アメリア先生が？」
142	セーラ セーラアウト　しょうがなくブ ツブツ言ってドアの方へ向う		セーラ「ええ、それで表まで荷馬車で……、 急いで下さい」 ジェームス「ちっ！　また余計な仕事か！」 モーリー「まったくなんて日なんだろうね、今

	143	144	145	146	147	148
	ドアがバタンとしまって	ミンチン学院前　馬車来て止まる	馭者降りて来て扉を開ける—— ミンチン降りて来てお金を渡して玄関に向う　おじぎをする馭者	ミンチン　扉の前に来てノッカーをたたく —間— 扉開いてモーリー、ミンチンを出迎える 入って行くミンチン　扉しまる	机の上におかれているミンチンの帽子とバッグ	コートのボタンをはずし乍ら振
日は」				S・E　（馬車の出て行く音） モーリー「……お帰りなさいまし、院長先生！」		ミンチン「……なんですって……？　アメリア

	り返るミンチン		が池に……」
149	オズオズと上目使いのモーリー 苦々しげに正面を向き		モーリー「……は……い……。なんでも……、小犬に吠えられて、御自分でおっこちたとかで……」 ミンチン「ンまあ……あの子ったら……なんて馬鹿な真似を……!!」
150	申し訳なさそうにうつ向くモーリー		
151	いらいらとオーバーのボタンをはずすミンチン		ミンチン「……それで…、アメリアはどこにいるんです?!」
152	窓によりかかり上方を見つめているラビニア　口許をゆがめている		
153	三階の方を見上げているジェシーとガートルード けげんな面持ちで顔を見合わせる二人		

154	上を見上げている生徒たち		
155	ＦＯＬＬＯＷ↗トントントン と階段をあがるミンチンの足		
156	急いで曲り、キッとなって見上げて止まる		
157	三階を見上げている生徒たちが見える		
158	階段を昇り出す		ミンチン「……。そこでなにをしているんです！」
159	上を見上げている生徒、下を見てアッとなり　だだっと二階の廊下の方に降りて行く生徒たち 手前から急ぎ昇るミンチンが行く　きっとなって右手を見るミンチン		
160	だだっと降りて来てはっとなり ――止まり　ばつが悪そうにしずしずと階段を降りるジェシイ		

	とガートルード		
161	昇って来るミンチン　降りて来る二人をじっと見つめている具合悪そうに顔をそらして降りて来て、ミンチンの前に立ちうなだれる―― 睨んでいるミンチン　二人から目線を手前の方に移す		
162	うなだれている生徒たち		
163	一同を見回して		ミンチン「さ！　早く自分の部屋へ戻りなさい！」 ←〜（こぼし）
164	手摺りにつかまり下をのぞき見ているラビニア、ニヤリとしてoutする（あるいて）		S・E　（ドヤドヤとする音と扉の開閉音）
165	そして誰れもいなくなった二階の廊下―― 満足に見つめてて　三階への階段を昇って行くミンチン（裾をつかんで昇ります）		

165	自室の扉を細目にあけて窺うラビニア 扉をそうっとしめるラビニア 手前から昇って来るミンチン		S・E　(足音)
166	昇り切り止まり、　前方を見つめるミンチン		
167	三階の廊下		
168	ベッドに突っ伏してうめくアメリア		アメリア「ううう〜〜っ、　あいたたー……」
169	毛布の下に手を入れさするセーラ		
170	さするセーラとうめくアメリア ドアの開く音　はっと振り向く		アメリア「あいたた……そこよ、　セーラさん、あ、　ありがとう、　……あいたたた」
171	扉をしめるミンチン		
172	ミンチンの方を見る二人		

	苦しそうに冷や汗を流しているアメリア 起き上がろうとしたので苦痛が走るアメリア　枕に伏してしまう セーラ、あわててさする	アメリア「……あ…！　う……お、ね、え、さ、ま……！」 セーラ「お帰りなさい、ミンチン先生」 アメリア「……あ…いたた……！」 セーラ「……先生！　アメリア先生！」
173	口許をゆがめて睨みつけるミンチン	
174	苦しむアメリア	アメリア「う……うー……うっ！」
175	ギュッとスカートを握りしめるミンチンの手　懸命にさするセーラ——前に出て行くミンチン はっとなって顔を上げ、ミンチンを見上げるセーラ	
176	セーラをあごをしゃくり、どけという感じで睨むミンチン	
177	はっとなって後退するセーラ	

	ミンチン、アメリアの枕頭へ進みのぞきこむ	
178	キッとなって睨み	ミンチン「アメリア！」
179	あえぐアメリア　はっとなってミンチンを見上げる　苦しげな口許——！	
180	にくにくしげに見すえるミンチン	ミンチン「……う…あなたという人は！　……私がいない時に限って、おろかな事ばかり引き起こして……！」
181	顔をゆがめて起き上がり痛みをこらえる	アメリア「す…すいません……お姉様……う…う、いたた！」
182	いかりが爆発する	ミンチン「……なにがあいたたです!!　……私がどんなに苦労して市長夫人に、この学院の経営について、お願いに行って来たか……あなたには判らないのですか……!!」

183	はらはらとミンチンを見上げていたセーラ……アメリアの方をのぞく		アメリア(off)「……も……もうし訳…… 〜 ありません………」
184	懸命に痛みをこらえ乍ら台詞を言い終りうなだれる		
185	いやみたっぷりに（フンといった表情） 手前に歩き出す		ミンチン「……勝手に、池に飛びこんだりして…… 〜 ……、それで生徒たちにしめしがつくのですか」
186	ミンチン、ジロジロとアメリアを見つめ乍ら　窓の方に歩き アメリア　半泣きになる 傍でたまらず出るセーラ		アメリア「ご、ごめんなさい、お姉様……」 セーラ「あのォ……院長先生……」
187	ジロッと振り返る		
188	必死な表情でミンチンを見つめるセーラ うなずくセーラ		セーラ「アメリア先生は、熱もおありの様子なんです」 ミンチン「熱が……？」 セーラ「もしもの事があると……。それで、お医者様をお呼びした方がいいのでは

			ないかと……」
189	とアメリアを見る		ミンチン「医者を……？」
190	ミンチンの方を見上げるアメリア――枕にしがみつき痛さをこらえ乍ら		アメリア「い、いえ……（ミンチンに言う）……（伏して）……いいのよセーラさん……お医者など呼ばなくても……な、なんとか我慢してみせるわ」
191	苦痛にゆがむアメリア		アメリア「あいたた…」
192	セーラ、アメリアの腰をなでる ミンチン、アメリアをのぞき見る 奥で暖炉が燃えてる		アメリア「たた……」 セーラ「……先生……！　アメリア先生！」
193	腰をさすり乍らミンチンを見上げるセーラ		セーラ「お願いします、お医者様を呼んであげて下さい」
194	アメリアを見つめていたミンチン　大きく吐息をつき、はきすてるように―― セーラを見るミンチン		ミンチン「ま…やむを得ないでしょう……。 セーラ……！」

195	起き上がるセーラ		セーラ　「は、はい、院長先生」
196	ミンチン		ミンチン「アメリアに場所を聞いて、先日お前の為に呼んでやったあのお医者を呼んでおいで」
197	顔をかがやかせて		セーラ　「はい、院長先生」
198	無理に起き上がるアメリア		アメリア「お、お姉様…………すみません……」
199	うす暗いガス灯		
200	キョロキョロ探しながらやって来るセーラ よっぱらいが歩いてる――		
201	暗い露地を探し乍ら入って来る セーラ		
202	ＦＯＬＬＯＷ←　歩いてるセーラ （ＦＯＬＬＯＷ止まる） 突然頭上の二階窓からザアッと汚水が投げ捨てられる――		

	慌てて飛びのくセーラ		
203	窓から水を捨てる老婆		
204	見上げているセーラ		
205	台詞を言い乍らも捨てる老婆		おばさん「おや、人がいたのかい……。濡れないようにしなよ！」
206	セーラ		セーラ「ええ、大丈夫です」 おばさん「そうかい、そりゃ良かった、気をつけなよ。この辺うろうろしてると何が飛んで来るかわかりゃしないよ」
207	セーラ　見上げて		セーラ「は、はい……あのォ……この辺にお医者様のワイルド先生のお住いがないでしょうか」
208	あきれた感じで		おばさん「ああ……あの酔っ払い医者なら、家なんかにゃいないよ」
209	セーラ「?」		セーラ「えっ?」

210			おばさん「ハハハ……この先の……居酒屋でものぞいてごらん。運が良きゃ、まだつぶれちゃいないかも知れないよ、ハハハ……」
211	と、部屋の中に姿を消す セーラ　茫然と見送り、言われた方へ歩き出す		セーラ　「あ、有難うございます……」
212	裏町、たむろしている男や女		
213	女が角に立っている キョロキョロとセーラ来る		
214	女を見乍ら行くセーラ		
215	パブの店先セーラ来る――のぞき乍ら歩く		
216	止まり、考えこむセーラ―― 騒ぐ声大きく　意を決して入る		
217	ドアが開き、そーっと入って来		

	るセーラ　おずおずと見廻す 手前でビールをのんでる人々	
218	背を向けて呑む大男たち	
219	男たち	
220	ドアは開けたまま　ふと一方から声がかかる ハッとして声の方を見る	声　「いよお……あんたは、なんとか学院のメイドさんじゃないかね…」
221	カウンターからビールのジョッキーを片手にしたワイルド医師がヨロヨロと近づいて来る	
222	ちょっとあとずさりするセーラ オーバーにジョッキーをあげ	セーラ　「あ、あの……ワイルド先生でいらっしゃいますか」 ワイルド「さよう、さよう、そのワイルドでいらっしゃるわい」
223	振り返り、どっと笑う客たち もう一度くるりと振り向いて	客　「あはは……」 ワイルド「どうしたね…まさか、あの時の支払いが少なすぎたと、あの院長さんが追

	又どっとわく	加をくれに寄越したんじゃあるまいね」 客　達「ははは……」
224	目をくりくりして驚いているセーラ	セーラ「ち、違うんです……アメリア先生が池に落ちて、腰を打って……」
225	客達、どっと笑う	ワイルド「なんじゃと?! 池に落ちて、腰を打った……? はて、そりゃまた奇妙な怪我をしたもんじゃね」 客　達「あははは……」
226	くるっと振り向くワイルド 揺れる身体を保って客達を制する フラフラと表ドアへ	セーラ「ほ、本当なんです。幸い池が浅くて。それに熱があるんです」 ワイルド(off)「なあるほど……。笑うな、諸君……これで、このわしが今でもお呼びがかかる医者だと、はっきり判った筈じゃ……では、メイド君、参るぞ」
227	店の主人が忘れていったカバンと帽子を出して	主　人「おいおい、名医どの、大事な商売道具と帽子を忘れちゃ困るな。それにジョッキはかえしてもらいたいね」

	228	229	230	231	232	233
再びどっと笑う	とジョッキーをのみほして、もどって行くワイルド 茫然と見るセーラ	FOLLOW　辻馬車の車輪の UP→	イビキをかいて寝てるワイルド 画面ブレ↕	アメリアの部屋の窓にT・U 頭止　T・U	怪訝な顔で見守るモーリー	ベッド脇でアメリアの診察を終るワイルドと傍にセーラ、ワイルドのカバンをもってる　モーリー　ワイルド立ちあがりながら
客達「あははは……」	ワイルド「おう、こりゃ、失敗失敗、ハハハハ……………ぷはあ……」					ワイルド「心配なしじゃ…軽い打ち身じゃよ。 張り薬を置いて行くから、時々かえて

			やれば、二、三日で治るじゃろ。熱も今夜一晩冷やしてゆっくり眠れば大丈夫じゃ」
234	ホッとするセーラ		セーラ「よかった……」
235	無理な笑顔を見せて		アメリア「有難うございました、ワイルド先生」
236	アメリアを見てにっこりとする ワイルド――セーラ、モーリー きょとんとワイルドを見つめる ワイルド、モーリーの方を見る		ワイルド「なあに、礼を言うのは、こっちの方じゃよ…なにしろ、儂を呼んでくれた患者は久し振りじゃからな、はっはっは」
237	顔をよけるように口を押さえる モーリー		←～～～～～
238	唖然となるアメリア　ニヤリとするセーラ		（笑い声）
239	ドアが開き、ワイルドとセーラが出て来る		ワイルド「それじゃ、お大事に」 セーラ「本当に有難うございました」 ワイルド「ああ、もう、ここでいいよ。あんたは今晩一晩、患者さんにつきそってあ

	とドアをしめるセーラ		げなさい」 セーラ「はい……それじゃおやすみなさい…」 ワイルド「おやすみ」
240	ポケットから酒瓶を取り出しグイッと一口やって　いい気持でFr・out		
241	待たせてあった馬車に近づくワイルド　御者に助けられて乗り込む　御者が台に上がり、ひと鞭あてて走り出す ミンチンの声がかぶる		ミンチン(off)「なんですって?」
242	モーリー		ミンチン「ではあのお医者が、アメリアの面倒は、セーラが見るようにと……」 モーリー「はい、院長先生………」
243	モーリー		モーリー「アメリア先生もセーラを傍に置きたがってらっしゃいまして、ずーっと腰をさすらせて………」
244	ミンチン		ミンチン「馬鹿な事を……セーラをつけ上がら

	パッと振り向き　スッと立ち上がる		せるだけです」
245	暖炉のＵＰ		アメリア(off)「ありがとうセーラさん……」
246	ベッドのアメリアの腰をさすっているセーラ セーラ、微笑して		アメリア「お蔭で大分、痛みが少なくなったわ」 セーラ「よかったですわね、アメリア先生…」
247	気もちよさそうにしているアメリア　首を回してセーラを見る		アメリア「ええ……ありがとう……」
248	さするセーラ		
249	じっと見つめるアメリア		アメリア「セーラさん……私……前から、あなたにお詫びしなければと、思っていたのよ」
250	驚くセーラ		セーラ「え！　お詫びって……？」 アメリア(off)「お姉様のことよ」 セーラ「え、院長先生……」

251	頭を枕にしずめる　T・U		アメリア「ええ……本当言うと……私…（T・U）……あなたがお父様を亡くしてからの、お姉様の扱い、とても申し訳ないと思っていたのよ」
252	セーラ　又驚く		セーラ「そ、そんな……」
253	目線をはずして、枕に顔をグッとおしつける		アメリア「いくら、この学院があなたの為に不利益になったからって、今のような扱いをするなんて、あなたが可哀想すぎるわ」
254	セーラ「……」		セーラ「アメリア先生……」
255	暖炉のUP　兼用（245） O・L		
256	腰をさするセーラ O・L		
257	腰をさするセーラ　T・U↓セーラに　頭止　T・U（246）兼用		
258			アメリア「でも、お姉様を憎まないでね。私に

			とってはお姉様は母親と同じなんですもの」
259	茫然と聞くセーラ		アメリア(off)「私たち姉妹も小さな時に両親をなくしたのよ」
260	宙を見るアメリア		アメリア「丁度あなた位の年令だったお姉様は、生まれたばかりの私を連れて」
261	O・L ハーモニー止メT・B ミンチンの子供時代のイメージ		アメリア(off)「叔母の家で働きながら慈善学校を卒業したの」 セーラ(off)「まあ……」
262	O・L ハーモニー止メ　家庭教師をしているミンチン		アメリア(off)「それから住み込みの家庭教師をしながら私を学校にやってくれ……苦労を重ねて
263	O・L アメリアを寝かせて勉強しているミンチン　ハーモニー止メ		～
264	O・L アメリア　しみじみ		やっと今、この学院を経営出来るまでになったのよ」

265	じっと聞くセーラ　深く頷く		アメリア(off)「だからお姉様は」
266	アメリアの眼に涙が光る cut一杯T・U		アメリア「この学院の経営の事しか頭にない人になってしまったのよ。だからあなたにあんなに辛く当ってしまうのだと思うわ。許して、お姉様を」
267	セーラ　びっくり		セーラ　「ア、アメリア先生………」
268	首を回してセーラを見つめるアメリア、手をのばしてセーラの手を握る		
269	手（二人の）		
270	アメリアを見つめるセーラ T・U　頭止メ　T・U		
271	セーラを見つめるアメリア T・U		アメリア「ね、セーラさん、今夜はこの部屋にいて下さらない……？……T・U（三十〇）……そうすれば、あんな馬小屋に戻らないでも済むわ」

272	喜びにほころぶ顔　前に出る		セーラ「あ、有難うございます、 アメリア先生……」
273	手を握り合う二人——顔を見合わせてにっこりし合う		
	インサート　火		
274	いきなりドアが開いてミンチンが入ってくる　T・B（早い18K）　ここで初めて引きサイズに　大判作画 つかつかと入ってくる		セーラ(off)「あ、院長先生！…………」 アメリア(off)「お、お姉様！…………」
275	ミンチン　セーラをジロリと見て 柳眉を逆立ておこるミンチン		ミンチン「なぜこの部屋にいつまでもいるんです」 アメリア「お姉様……」 ミンチン「お前の寝場所は、ここではないはずです。早くお戻り！」
276	ミンチンを見つめていたセーラ軽く叩頭して		セーラ「は、はい、院長先生……では、おやすみなさい」 アメリア「セーラさん……」

277	ノブに手をかけるセーラ　止まる		
278	口唇をかみしめ悲しみをこらえる――満足な微笑――涙が流れおちる		
279	扉を開けて出て行くセーラ　しめる――		
280	じっと扉を睨むミンチン　うなだれていくアメリア T・U		
281	タッタッタッと降りるセーラの足　T・U		
282	階段を降りて来て、気をしずめるセーラ　深呼吸して台所へ入る		
283A	入って来るセーラ　待っていたようにinするベッキー		ベッキー「あ、お嬢様、台所仕事は全部片付けておきましたです」

283B	モーリーがドアを開きのぞき バタンとしめる		セーラ「有難うベッキー……」 ベッキー「いいえ、それよりアメリア先生、大丈夫でございますか」 セーラ「ええ、大丈夫よ」 モーリー「さあさあ仕事が終ったら早く寝ないと灯りの無駄だよ！」 セーラ「はい、モーリーさん」
284	セーラ　手燭を持って台所から出てくる　台所の灯が消えベッキーも手燭を持って出てくる 階段の方へ歩く二人 とベッキー階段に消える		ベッキー「じゃ、お嬢様おやすみなさいまし」 セーラ「おやすみ、ベッキー」
285	ドアの灯りも消え　手燭の灯りのセーラが出てくる　階段をあがってFr・out		
286	扉が開き入ってくるセーラ 扉をしめる		
287	手燭ナメで馬小屋をＰＡＮ		

288	エミリーと写真のUP		
289	じっと見るセーラ		
290	台の上に置いて Fr・out		
291	FOLLOW← ワラの上を歩くセーラの足		
292A	エミリー、写真、セーラFr・in セーラ、エミリーをひしと抱きしめる		セーラのN「そうです、私の寝場所は矢張りこの馬小屋しかなかったのです」
292B	T・B 大版作画 手燭のローソクが消える——暗くなる F・O		

（おわり）